



石川県 羽咋市

姉妹都市

ふくむはくい

羽咋市宿泊キャンペーン



羽咋市宿泊キャンペーンの詳細は羽咋市のホームページをご覧ください

羽咋市宿泊キャンペーン 羽咋に泊まってお得な'22!!

羽咋市内の宿泊施設に宿泊した人全員に地域商品券3,000円分をプレゼントするキャンペーンを開始しました。

食事やお土産購入、観光タクシーでの観光地周遊などに利用できます。

対象 令和4年10月30日(日)までにチェックインした人

※宿泊者一人一人が対象です

内容 市内約250店舗で使える「UFO商品券」3,000円分を漏れなく進呈します

※宿泊料には使用できません

藤岡市の皆さん、夏や秋の旅行にぜひ羽咋市にお越しください。

ふじおか Culture

～藤岡の文化を探る～

【問い合わせ 文化財保護課 (☎235997)】

No.76

伊勢神宮のお札配りの拠点 ～藤岡伊勢殿～

江戸時代、お伊勢参りの大流行で全国から参詣者が訪れていた伊勢神宮。その一方で神宮は、毎年新たなお札を全国に届けていました。

神宮の近くの町には、参詣者の宿泊や祈願の世話をする御師と呼ばれる宗教者たちがいました。御師は手代を何人も抱えていて、毎年、手代を全国津々浦々へ数カ月わたるお札配りの旅に出していました。手代はお札の他に伊勢で用意した茶や箸などのお土産を携え、お札配りに便宜を図る人たちへ付け届けしつつ、村々を通行していきます。こうしたお札配りの拠点として、各地には「伊勢殿」が作られました。

こうした伊勢殿が江戸時代、藤岡地域にあったことが確認できます。地域に残る古文書によると、嘉永6(1853)年12月9日、お札配りの手代一行が「藤岡伊勢殿」から出発して鬼石村に向かい、鬼石村で人足25人と馬2匹を集めて讓原村に移動しました。出発地である「藤岡伊勢殿」にも20～30人と馬が集まり、鬼石村へ向かったはず。このような人馬の数を必要としたことに驚かされます。讓原村に着くと、そこに集められた25人と馬2匹と交替し、手代はさらに保美濃山村へ向いました。人馬を替えながら最終的に榑原村(現在の榑原村)にまで行っています。

さてこの古文書に出てくる「藤岡伊勢殿」の場所は現在では不明です。他地域の例では、現在の神明社が当時の伊勢殿であることが多くあります。かつて荷物や人足が集まったという伝えのある神明社が、皆さんの近くにありませんか。



藤岡伊勢殿から出された手代の先触れの写し(県立文書館寄託文書)

教えて! 消費生活

固定電話が使えなくなる?
IP網への移行に便乗した勧誘に注意!

Q 大手電話会社の子会社を名乗る業者から「令和6年にアナログ回線がなくなるため、今の電話が使えなくなります。光回線に切り替えませんか。光回線に切り替えするには工事料が発生しますが、今だと工事料は無料です」という電話がかかってきた。不審に思い断ったが、この業者の言ったことは本当なのですか。

A 電話サービスのために用いられている公衆交換電話網の設備が令和7年ごろに維持限界を迎えることから、NTT東日本およびNTT西日本は令和6年1月以降、固定電話のIP網への移行に伴い局内設備の切り替えを予定しています。切り替え移行後も現在使用中の電話機や電話番号はそのまま使用することができ、設備切り替えに伴う手続きや工事も不要です。この設備切り替えに便乗し、固定電話や固定電話の番号が使えなくなると言って、光回線契約などの勧誘があるので十分注意しましょう。分からない場合は、その場で返事はせず家族や周囲の人に相談し、電話会社にも問い合わせましょう。

消費生活の相談は市消費生活センター ☎fax 兼用 201133 (来庁相談要予約) 相談時間 平日午前9時～午後4時

いまからできる! 日常防災 Everyday disaster prevention

災害時に自分や大切な家族を守るのには知識と備えです。防災は日常に転がっており、生活と密接につながっています。防災を難しく考えず、簡単な日常の行動と結び付けて取り組んでいきませんか。

子どものための防災を!

【問い合わせ 地域安全課(☎27444)】

家庭での防災について考えるときは、子どもの立場で対策を講じておく必要があります。

- ①抱っこひも=避難に当たり、がれきが散乱する道路や人混みの中、ベビーカーでの移動は困難です。両手が自由になる抱っこひもを準備しておきましょう。また「前抱っこ」にすれば、子どもの頭を守りやすくなります
- ②ネームタグ=子どもとはぐれてしまった時に備え、血液型や緊急連絡先などを書いたネームタグを付けましょう
- ③お気に入りのおもちゃ=災害時に子どもは、いつもと異なる環境で不安定になりがちです。そんな時には、いつも使っているおもちゃが安心感につながります。防災バッグに子どもの好きなおもちゃも入れておきましょう
- ④ベビー用品=おむつ・おしりふき・肌着・ベビーフードなどは多めに買っておきましょう。救援物資が届くまでの目安として、最低限3日分を用意しておきます。おしりふきは、大人が体を拭くことにも使用できて便利です
- ⑤子ども部屋=子ども部屋は物が密集しやすく、災害時の危険が多く潜んでいます。机の下には物を置かず、すぐに逃げられるスペースを確保しておきましょう。また大きな家具などは固定しておきましょう
- ⑥行き先を確認する=災害時は携帯電話での連絡ができなくなる可能性があります。子どもの外出時には「行き先」「誰と会うか」などを確認する習慣を付けましょう

